

会 議 録 (発言要旨)				
会 議 名	第2次三豊市総合計画審議会 (第7回)			
日 時	平成30年11月9日(金) 13時30分～15時45分			
会 場	三豊市危機管理センター201会議室			
出席委員	原 真志 会長	正田茂義 副会長	則久 郁代 委員	平井 俊広 委員
	横山昌太郎 委員	田井 清 委員	新延 修 委員	中村 和良 委員
	橋本 純子 委員	黒田日出子 委員	矢野 康江 委員	眞鍋有紀子 委員
欠席委員	増田 博志 委員	今川 宗一郎委員	砂取 とき 委員	
事務局	綾 章臣 政策部長	石原一也 田園都市推進課長	小野 晃照 主任	森 郁美 主任主事
傍聴者	なし			
議 題	(1) 三豊市第2次総合計画におけるパブリックコメントについて (2) 三豊市第2次総合計画策定に関する答申(案)について (3) 三豊市総合戦略に係る事務事業及び地方創生関連交付金活用事業の効果検証について			
議事の経過 および 発言の要旨	事務局	◎審議会委員の出欠状況について ◎会議の公開について ◎三豊市議会総合計画調査特別委員会の設置について		
	原会長	◎あいさつ ◎公開方法について確認 議事1「三豊市第2次総合計画におけるパブリックコメント」について、事務局より説明を願う。		
	事務局	三豊市第2次総合計画におけるパブリックコメントについて説明		
	原会長	ただいま事務局より説明のあった内容について、ご審議を願う。		
	横山委員	前は意見提出があったのか。		
	事務局	10年前に新総合計画策定時にはなかった。		
	横山委員	なかなかホームページで見るとは少ないのかもしれない。		

原会長	今後、意見の提出があった場合は、事務局での対応となるということ。
中村委員	ホームページ見たが、見つからなかった。
事務局	トップ画面に表示されるようにしている。
則久委員	ホームページ以外ではどのように周知しているのか。
事務局	広報 10 月号でお知らせしたのと、本庁及び支所の掲示板に張り出している。
政策部長	ホームページでほかの記事が更新されて、トップに表示されなくなっていたので修正したところである。 ホームページだけでいいのかというご意見もある。
則久委員	支所に行けば閲覧できるようにしているのか。
事務局	している。
横山委員	市のメールマガジンでは出していないのか。
事務局	メールマガジンは行政防災無線で放送するものについて配信されるようになっており、今回無線放送はしていない。
政策部長	メールマガジンの活用もできていない現状。
横山委員	意見がないのはさみしい。広く届いているのか。
則久委員	後から募集について知るのは…
横山委員	このままでは、何も意見が出ないまま終わってしまうのではないか。
事務局	メールマガジンと無線放送については、対応を検討したい。

	原会長	議事2「三豊市第2次総合計画策定に関する答申（案）について」について、事務局より説明を願う。
	事務局	三豊市第2次総合計画策定に関する答申（案）のうち、将来像及び人口目標部分について説明
	原会長	まず、将来像と人口目標について、審議願う。
	橋本委員	<p>将来像の説明にある、「多くのものを持つことや利便性を追い求めることだけが三豊ならではの豊かさではない。」という文章がとても良い。</p> <p>自分自身が移住者ということもあり、不便なくらいが生活にゆとりや豊かさを与えていると感じるので、こういったことをもっと前面に出していった方が良いと思う。</p>
	原会長	事務局はいかがか。
	事務局	<p>橋本委員より意見があったように、今あるものを大事にすること、今あるものの価値を市民が知るべきだという意見が本審議会でも多く寄せられている。</p> <p>ものにあふれることや利便性だけが豊かさやゆとりにつながらないということを強調して書きたい。</p>
	原会長	「ちょっと不便なくらいがちょうどいい」という言葉は、キャッチフレーズになる。
	橋本委員	<p>移住希望者等に話をするとき、都市部での暮らしは少し歩けばコンビニがあって、深夜でも灯りが煌々と点いているが、地方に出てきてみるとこれまでの生き方ってなんだったのだろうと考えさせられる。</p> <p>夜ご飯をつくるときにあれがないから作れないというのではなく、代わりにこれで作ってみようとしていると心にゆとりが生まれてくる。</p> <p>それが地方の良さだと感じている。</p> <p>少し不便な暮らしを楽しむぐらいでないと。</p>

		<p>そうしていると必ず人生が豊かになると話している。 一歩下がって物事を見ると世界が広がる。</p>
	中村委員	<p>私も東京の人に同じことを話している。 不便だから工夫が生まれる。 そういうものを楽しめばいいと話している。 これは、都会にはない田舎の楽しみ。</p>
	橋本委員	<p>ずっとここで暮らしてきた人は、何でもある暮らしをしてみないとこの良さがわからないのかもしれない。 Uターンの人も増やしていきたい。</p>
	原会長	<p>Uターンの人の方が、この良さをわかって戻ってきているのかもしれない。 実感がこもった言葉なので、発信していけるといい。 では、続いて事務局より基本目標①に関する説明を願う。</p>
	事務局	<p>三豊市第2次総合計画策定に関する答申（案）のうち、基本目標①部分について説明</p>
	原会長	<p>ただいまの説明に関して審議願う。</p>
	橋本委員	<p>有害鳥獣被害についてだが、今狩猟免許を取る人も増えてはいるが、捕った後の処理や解体に困っている。 処分についても、資源としてジビエ料理への活用などの公州もあるとは聞いている。 でも、一頭さばくのも大変なので、農作業の傍らでできるかと言えば、難しいと思う。 なので、処分についてもスムーズにできるようにして欲しい。</p>
	則久委員	<p>どれくらい捕獲されているのか。</p>
	橋本委員	<p>猟期は11月15日から2月中旬くらいと決まっているが、イノシシは年中いるので、狩猟免許を持っている方は、猟期以外でも害獣駆除として捕獲している。</p>

	事務局	<p>本編のまちづくりポイントをご覧いただきたい。 あくまで捕獲数にはなるが、2017 年で 1,630 頭となっている。</p> <p>捕獲数とは比べられない数が生まれていると思う。 捕獲してジビエ等に活用するものと処理するものに対応できるように体制をつくっていくことが大事。 これは、三豊市だけではなく香川県全体の問題でもある。 これは広域的に取り組んでいかななくてはならない。</p>
	則久委員	<p>捕獲された 1,630 頭のうち、どれだけが無効活用されたのか。</p>
	中村委員	<p>有効活用はほとんどないだろう。</p>
	橋本委員	<p>親（イノシシ）は食べられるが、子は処分になる。 繁殖期の雄は、臭くて食べられないと聞いたことがある。 去年が 1,631 頭捕獲で、目標値が 1,500 頭となっておるのは年々減ってくるという見込みか。</p>
	原会長	<p>対策が功を奏したら減るということか。</p>
	事務局	<p>総合計画の中では、被害発生の防止策としているが、未然に防ぐということが手薄なため、被害が広がっている。 なので、捕獲も被害防止策となるが、餌場や住処をつくらな いたための取り組みを進めるということで捕獲数は減っていく としている。</p>
	橋本委員	<p>人間との生活圏を分けるのは難しい。 目標値としては甘い。</p>
	横山委員	<p>捕獲数というのは目標値にしづらいところだと思う。 被害額の減少が目的である。</p>
	原会長	<p>問題は、状況をどう認識するかだと思う。 頭数の増減が読めないというところだと思う。</p>

	横山委員	生息頭数を目標にはできないと思う。
	事務局	有効活用で言えば、一部道の駅で販売している。
	田井委員	愛媛では、捕獲したら連絡が入って、すぐ処理、販売している。 また、唐辛子をつくってイノシシから被害を防止したという話も聞いた。
	横山委員	財田の道の駅で売っているのは、三豊の方か。
	橋本委員	業者による販売で、三豊の人ではなかったと思う。
	中村委員	起業を含めて人材確保に力を入れれば良いと思う。 父母ヶ浜でも起業が始まっている。 もっと積極的に人材確保をすべきである。
	事務局	三豊にあるモノを大事にすることも必要だが、三豊で頑張る人や地域活性化に取り組んでいる方を積極的に受け入れられるよう体制を整えたり、支援策をとったりする必要がある。 おもしろい人がいれば、人や企業が集まってくる機会にもなる。 ピンポイントで人を募集することも含め、地域内で必要である人を確保していきたい。
	中村委員	外から人を呼んでくるのが大事。 周りへの刺激にもなる。
	事務局	三豊が求める人材と言うことであれば、地域おこし協力隊という国の制度を使って、地域内で力を発揮していただいている。 三豊市でも2名。 中山間における活動で地域課題の解決に取り組んでいただいている。 今後も本市が注力していきたいことを明らかにして、こうい

	<p>原会長</p> <p>事務局</p> <p>橋本委員</p>	<p>った制度も活用していく。 計画内でも明記していきたい。</p> <p>徳島県神山町では、いろんなバリエーションの人に商店街の空き店舗に入ってもらっている。 行ってみれば逆指名のような。 徳島の上勝では、起業促進に向けて起業希望者をリクルートして連れてくるやり方に転換して起業が増えている。 来てほしい人を指名するとともに、起業する人を外から連れてくるというのは、総合計画の基本目標を実現するにはいいと思う。</p> <p>説明したとおり、2名の地域おこし協力隊は、離島農山村振興として取り組んでいただいているが、市全体としても参入してもらいたい。 素案153P基本方針②市民が可能性を切り開くまちづくりとして、地域外から三豊で挑戦する人を支援して地域を盛り上げてもらいたいと思っている。</p> <p>三豊の地域おこし協力隊は、財田山本担当ということで、イベントをつくってもらったり、大学生とのツアーを組んだりしてくれている。 年齢制限があるが、年齢を越えていてもアクティブに活動されている方もいるので、年齢ではないと思う。 今後、年齢の上限をゆるくしていろんな人材を募集しても良いと思う。 いろんな経験や智恵を持っている人もいる。 財田では移住者が多いので、移住者が新たな移住者を呼び込む活動をしようと思っている。 移住者だからこと、知っている地域の良さもある。 移住者をもっと活用して地域を元気にしてほしい。 移住者がやりたいことをやるには、地元の人との協力が必要で、財田は後押ししてくれる。 そういった雰囲気のみまちづくりが財田だけではなく、市全域に広がるといい。 移住者から若い方や移住希望者に、三豊の良さを伝えていき</p>
--	-----------------------------------	--

		たい。
	中村委員	これまで県主体でしていた都市部での移住フェアを三豊市 でしてほしい。
	事務局	地域おこし協力隊の年齢制限については、考えるところもある。 企業に勤めていた時のノウハウや経験を發揮していただく ような場面もあるので、年齢については再検討が必要。 移住については、財田のようなモデルが地域全体に広がる取 り組みができればと思う。 都会からの流れだけではなく、外国人を含む多文化共生を視 野に入れてまちをつくっていかねばならない。 市主催の移住フェアについては、今後ぜひ取り組んでいきたく いので、お力添えいただきたい。
	原会長	財田だけどうしてそんなに進んでいるのか。
	橋本委員	農業移住に関しては、私自身がきっかけでもあるが、地域の 人は私のような女性が畑仕事することを心配してくれていた ようだ。 知らない土地で楽しそうに農業をして、地域の人とわいわい 話している私を見て、驚いたと聞いている。 それからすごく気にかけてくれるようになった。 私は、農業学校に通っていたが、それから毎年事務局が卒業 生を財田に連れてきてくれている。 それで外から人を呼び込めるということに気づいた。 私自身が財田を好きと言ったことで財田の良さに気づいて くれた。 財田の人は、よく見ている。 移住者からしたらよい距離感でいてくれている。 助け合う雰囲気がある。
	原会長	財田町のプロセスは、他の地域でも参考になる。
	橋本委員	他の町にもそういった人がいると思う。

	原会長	One MITOYO のモデルのひとつになると思う。
	事務局	三豊市第2次総合計画策定に関する答申（案）のうち、基本目標②部分について説明
	黒田委員	<p>夢が持てるような目標であると感じた。</p> <p>あと10年後、次の10年後を考えると、子どもたちが、三豊のことを考えたいと思うようなまちにしてほしい。</p> <p>自分たちも意見を言いたいと子どもたちが思えるように。</p> <p>できるかわからないが、高校で地域のことを学ぶ科ができればいいと思う。</p>
	事務局	<p>三豊ならではの学習は今後取り入れていきたい。</p> <p>また、子どもが夢を持つことができないまちづくりではいけないので、可能性を拡げる学びを提供していきたい。</p> <p>自分が暮らすまちのことを学ぶことは、将来的な定住にもつながってくると思う。</p>
	事務局	三豊市第2次総合計画策定に関する答申（案）のうち、基本目標③部分について説明
	委員	（意見なし）
	事務局	三豊市第2次総合計画策定に関する答申（案）のうち、基本目標④部分について説明
	中村委員	<p>移住には、住まいのことだけでなく、仕事か学校などいろいろなことが関係してくる。</p> <p>相談の一元化が進めば良いと思う。</p>
	事務局	おっしゃる通り、各課とも連携をとって総合的に支援していきたい。
	事務局	三豊市第2次総合計画策定に関する答申（案）のうち、基本方針①部分について説明

	委員	(意見なし)
	事務局	三豊市第2次総合計画策定に関する答申(案)のうち、基本方針②部分について説明
	委員	(意見なし)
	原会長	では、本日が最終会議ということもあるので、ここでいただいたご意見を踏まえ、私と事務局の協議のもと最終の答申を作成するというので、ご一任いただいてもよろしいか。
	委員	(意義なし)
	原会長	議事3「三豊市総合戦略に係る事務事業及び地方創生関連交付金活用事業の効果 検証について」について、事務局より説明を願う。
	事務局	資料説明
	横山委員	総合計画とは、どのようにリンクしているのか。
	事務局	昨年度までは、総合戦略の策定を行う推進委員会にて、効果検証を行っていた。 昨年度にその任期が一旦終了したことから、本審議会での検証を行っていただいている。 現在、総合戦略と親和性の高い総合計画について、内容の深い審議を進めていただいているということで、今年度は、本審議会にて事業報告及び効果検証を行うこととした。 総合的なご意見を賜る場としたい。
	横山委員	一旦総合計画とは切り離して考えれば良いか。
	事務局	総合戦略は、10年前に策定した三豊市新総合計画に基づいて策定されており、その計画期間があと2年度残っている。 今策定していただいている新たな総合計画とは別ものには

	<p>中村委員</p>	<p>なるが、これまで取り組んできた各事業の経過報告をする中で、ご意見を頂戴したいと考えている。</p> <p>地域再生計画 3-3 の竹資源事業について、縮小となっているが、農林水産課で実施している付加価値づくり事業は、竹だけではないが、これと同じ内容だと思う。</p> <p>この事業は、次期総合計画での重点プロジェクトにもなっているが、今までのやり方ではいけないように感じている。</p> <p>今後どう進めていくかが非常に大事なことだと思う。</p> <p>地域商社の瀬戸内うどんカンパニーの北川代表は、付加価値づくり事業のワークショップに全く参加していないので、販売に関しての議論がされていない。</p> <p>この通り、進めていけば良いと思うが。</p> <p>再生計画でもブランド化や耕作放棄地の対策について、付加価値づくり事業と同様に考えているようだ。</p> <p>まず、ブランド化においては、農産物による商品開発が第一だと思うが、それについてはあまり触れておらず、現在あるもので取り上げるぐらいで新しいものを作っていこうというワークショップにはなっていない。</p> <p>うどんカンパニーも含めて、もっと議論していくべきではないか。</p>
	<p>事務局</p>	<p>未利用農産物を生かした新たな三豊ブランドの創出と、地域商社事業がリンクしていないというご意見であるが、目指すところは付加価値を付けていかに売っていくかということである。</p> <p>そのための両事業であるので、リンクしていかないと意味がない。</p> <p>そのあたりは、修正しながらブランド化に向けて展開していきたい。</p> <p>農林分野担当には伝えながら、進めていきたい。</p>
	<p>原会長</p>	<p>私も 2 つほど疑問がある。</p> <p>ひとつ、竹資源事業では、即時的な商品化が難しいから縮小となっている。</p> <p>事業として残すというのはどういうことか。</p>

	事務局	縮小となっているのは、市主体の事業としては、一步下がるが、企業への支援をするという意味で理解いただきたい。
	原会長	予算的にはどう縮小しているのか。予算はゼロか。
	事務局	交付金活用をしていたが、今年度は活用していない。
	原会長	縮小というより廃止ではないか。
	事務局	連携や後方支援は行っている。
	原会長	<p>今回の評価対象としては廃止として、連携や後方支援というのは、これとは別の枠組みでやっていくという話だと思う。</p> <p>なので、この事業の評価としては廃止と割り切る方がすっきりするのでは。</p> <p>事業が全くないのでは困るということであれば、どのように事業を行っていくのかと明確にしておかなければならない。</p>
	中村委員	私は、新たな事業として新たな農産物の開発、ブランド化事業とすれば良いと思う。
	原会長	<p>もうひとつ、瀬戸内うどんカンパニーについては、民間企業となるので、基本的に市は介入しないということであるが、全く支援しないわけにもいかないと思うので、どうするのかを問われると思う。</p> <p>今後、独自に事業を行ってもらいながらも、市としてどのように後方支援していくのか。</p> <p>竹資源事業に関しても地域商社との連携についてとあったが、いかがか。</p>
	事務局	<p>瀬戸内うどんカンパニーについては、地域商社の立ち上げにおける支援を行うこととして、会社運営への補助は行っていない。</p> <p>後方支援として、今実施しているツーリズム事業・商品開発について業務を委託している。</p>

		<p>3年間の支援は行うが、その後はうどんカンパニーの資本と経営力でやってもらうとしている。</p> <p>市は、それまでの支援を行う。</p>
	原会長	<p>業務委託の3事業は？</p>
	事務局	<p>ツーリズム事業・商品開発・UDON HOUSE 事業である。</p>
	原会長	<p>3つについては、業務委託を行っており、竹資源は委託を行っていないということか。</p> <p>竹資源事業において、地域商社にどうアプローチできるのかという疑問がある。</p>
	事務局	<p>竹資源事業については、荒廃竹林問題の解消と、竹の利活用を目的として始まった。</p> <p>出口としては、パーティクルボードや抗菌作用のある商品としているが、市事業としては難しいので商品開発については、民間企業に任せたい。</p> <p>しかし、荒廃竹林対策については、農林水産分野で引き続き行っていくこととした。</p>
	原会長	<p>竹資源を用いた商品開発について、民間企業に直接的な指示はできない。</p>
	事務局	<p>三豊発の建材や薬品などの商品開発に向けて、木材・製薬関係の企業と地域商社のコラボはあり得るかもしれない。</p>
	原会長	<p>現在、竹資源による商品開発を行っている会社に対し、どのようにマーケティングするか、どのように販路拡大するかについては地域商社の知見を活用していけないかということ。</p>
	田井委員	<p>地域商社について新聞記事等で、聞いてきている。</p> <p>UDON HOUSE は、二日で数箇所をめぐるツアーになっているが、外国人などが自分たちで市内を回る際に、自転車でのコースを見せたり、乗り捨てるシステムをつくらうとしているのが良いと思った。</p>

	<p>則久委員</p> <p>事務局</p> <p>横山委員</p> <p>事務局</p>	<p>乗り捨て自転車の仕組みを観音寺市とも連携して行ってほしい。</p> <p>市は、そういったことを後押ししてほしい。</p> <p>竹資源事業について、これまでの事業を民間委託するから事業縮小としたということか。</p> <p>なぜ縮小となったか、どう継続していくかを示してほしい。</p> <p>A社が独立して独自開発をしていくというプログラムができた。</p> <p>学術機関との連携により、研究部門としての幅広い研究を行ってきたことから、市の役目は果たしたと言えるため、縮小とした。</p> <p>荒廃竹林対策は、災害対策ともなるので、シフトチェンジしていく。</p> <p>うどんカンパニーの事業に関して、資料 42P、7 の表にある事業費執行状況というのは、正規職員数は、市役所職員の人件費か。</p> <p>本事業については、1,900 万の国の交付金と市の予算として約 2,400 万を投入したということで良いか。</p> <p>何に使われたかがわからないとなかなか。</p> <p>うどんカンパニーは、1 千万円でやってくださいということだったように思うが。</p> <p>1 千万は、うどんカンパニーの CU0 に対する経費となる。</p> <p>平成 29 年度の実績としては、国の交付金が 1,890 万、総事業費は 4,194 万となっており、主な事業としては CU0 公募に関する費用、広報・プロモーション経費となっている。</p> <p>また、立ち上げと運営サポートとして、ソフト事業ではソフトマーケティング、うどんキット開発における市場調査・実証実験の経費となっている。</p> <p>UDON HOUSE 事業の構想、立案経費も含まれている。</p> <p>設計、デザイン、アートディレクション、クラウドファンディングのプラットフォーム経費、マーケティング費用、広報・おプロモーション経費も計上されている。</p>
--	---	---

		<p>他には、地域商社事業の立ち上げということで、地域商社の事業構想や計画立案経費、事業所設置経費、外部人材の招へいによる商品開発の顧問としてのアドバイザー経費がある。</p> <p>あと、三豊市と首都圏の関係地づくり業務として、丸の内朝大学のトライアルツアーの経費もある。</p>
	横山委員	<p>では、うどんキットは市の事業としてマーケティング等による支援を行ったということか。</p>
	事務局	<p>平成 28 年度から、国の交付金を活用しており、3 年間で地域商社の自立に向けた支援を実施している。</p>
	原会長	<p>先程の 3 つの委託業務に入っているということか。</p>
	事務局	<p>その通り。</p> <p>また、業務委託以外として、市独自では、地域商社協議会の開催誘致を行っている。</p> <p>経費には、どちらも含まれている。</p>
	原会長	<p>そのあたりは、はっきり分けておいた方が良いのでは。</p> <p>何が市独自か。</p>
	事務局	<p>資料 3-2 になるが、29 年度事業で、瀬戸内うどんカンパニーCUO 公募決定事業、地域商社協議会の開催、丸の内朝大学は市独自の事業。</p> <p>事業立ち上げとして、商品開発事業、UDON HOUSE 事業、ツーリズム事業については、地域商社への委託事業となる。</p>
	横山委員	<p>では、市がうどん英才キットを作ってほしいと依頼したということか。</p>
	事務局	<p>そこまで具体的ではなく、三豊のものを使った商品開発というのがオーダーである。</p> <p>うどん英才キットは、そのオーダーに対する成果である。</p>
	原会長	<p>3 つの業務委託料の額は。</p>

	事務局	<p>業務委託料は、3つ合わせて400万円である。</p> <p>年額報酬1千万としていたので、月割りで約600万が報酬となる。</p>
	原会長	<p>あくまで、地域商社は民間企業であり、市から独立して創意工夫をしていく中で、市から業務委託をして3年間は頑張ってもらおうというものであると思うが、3年後には自立してもらふことになる。</p> <p>独立採算となっていくように数字を見ていかないといけないと思うが、徐々に市からの委託業務が縮小していくというようなことが示されていけば、3年後には市の支援なしでやっていけるということが見えるのでは。</p> <p>それが見えにくいように感じた。</p> <p>市の業務委託料以外は、CUOへの報酬だけか。</p>
	事務局	<p>30年度では、瀬戸内うどんカンパニーへの3事業への委託料は2千万、31年度も同様。</p> <p>儲かる仕組みを作ってもらって、いかに自走していくか。また拠点づくりも行っていないといけない。</p> <p>そのあたりを地域商社と連携して進めている。</p> <p>瀬戸内うどんカンパニーは、UDON HOUSEを経営しているわけではない。別会社が改修して経営している。</p> <p>地域商社のプロデュースにより、投資を呼び込もうということである。</p> <p>組織の拠点は三豊に置きながら、三豊のモノが売れる仕組みを作ってもらわなければならない。</p> <p>今はまだ、出来てはいない。</p>
	原会長	<p>途中段階であると思うが、本事業が適正かどうかは、地域商社自体の会計状況を確認して、今は赤字であっても3年後には自立できるか想定できるかのチェックが必要である。</p>
	則久委員	<p>1年ごとの目標設定をしていないと投資だけで終わってしまうのでは無駄になる。</p>

	眞鍋委員	<p>費用のうち、ほとんどが事業計画づくり、広報・PRとなると枠組みづくりに使われていて、うどんカンパニーへの業務委託が400万しかない。</p> <p>スタートアップの時は、ある程度うどんカンパニーが実施する事業に対して支援を行って、スキームのところが軽くなっていくのが本来だと思う。</p> <p>2,000万を地域商社に使ったと言っても2~3年後につながる事業に使われていない。</p> <p>予算配分はこんなもので良いのか。</p>
	事務局	<p>3年後に支援が終わって地域商社も終わったではいけない。チェックしていかないといけない。</p>
	原会長	<p>委託料には年俸も含まれているのか。</p>
	事務局	<p>含まれている。</p> <p>年俸とは言っているが、人件費ではなく活動資金である。</p>
	中村委員	<p>クラウドファンディングはいくら集まったのか。</p>
	事務局	<p>50万程度。</p> <p>クラウドファンディングによって広告宣伝費を使っていない。お金を集めて広告もする。知ってもらうことが目的。</p>
	原会長	<p>瀬戸内うどんカンパニーの資金としては、市からの業務委託料が全てか。</p>
	事務局	<p>報告を見るとそうなっている。</p> <p>今年からは、うどんキットの販売もある。</p> <p>それと、農産物の首都圏への販売仲介を行っている。</p>
	眞鍋委員	<p>ある程度基盤をつくって、十分に動けるように保障して自由に動いてもらって、2年目以降に薄くなっていくのならわかるが、1年目に動けなかったと思う。</p>
	中村委員	<p>続くかどうか心配である。</p>

事務局	半期ごとに議会等にも、財務諸表も含めて説明している。
中村委員	北川さんを中心に、三豊の農産物の商品開発をしていかないと先が見えない。
事務局	地域商社がまとめてやっていくということになっているができていない。
中村委員	農林水産課の事業には一切参加していない。 なんで出ないのか。
事務局	農林水産課の事業を始める際には、地域商社と連携することとしているが、できていない。
中村委員	真っ先に地域商社がまとめていくべき。
原会長	では、事務局は、ただいま委員から出されたご意見を考慮し、総合的に判断した各事業の評価を私まで報告していただき、確認した上で審議会としての最終意見とさせていただきたい。 よろしいか。
委員	(意義なし)
原会長	本日の議事はこれで終了とする。
事務局	◎連絡事項 ◎閉会あいさつ